

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 20	福山市立加茂中学校
最終更新日		2021年(令和3年)4月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

◇前年度学校関係者評価の主な内容
 ・残菜を減らす取り組みとして、新型コロナウイルス感染症対策として抵抗力をつけることから食べ残しを減らす取り組みを継続していただきたい。
 ・個と集団とのバランスを考えたかわりをしていくことで、一人ひとりの児童生徒の力を伸ばしていただきたい。
 ・若手の先生方が多くなる職場で、しっかり先生方も育ててほしい。

児童生徒の現状
 ・1小1中⇒0中1ギャップは少ない
 △友人との関わりや見方が固定化
 ⇒互いの新たな可能性や成長に気づきにくい
 ・不登校・不登校傾向の児童・生徒の
 小…増加 中…減少
 ・生活面⇒△基本的な生活・学習習慣、規範意識等に課題
 ・学力面⇒△基礎学力の定着・思考力等に課題
 ・体力面⇒小○「体育の授業が楽しい」92%
 中△県平均達成率38%

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	小 中	課題発見・解決力 創造力 社会性 考える・伝える・聴く力 見通す・振り返る力 社会性
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	豊かな心と、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を持ち、 自律的・協働的に、自らや社会の未来を切り拓いていく子ども	
中学校区として 統一した取組等	①豊かな心 ②必然性のある課題設定 ③見通す・振り返る	

III 自校

ミッション
学校教育目標(下記◎)及び保護者・地域の願い(上記◇等)を、生徒の姿で、具現化する。=「行きたい・行かせたい」加茂中
学校教育目標
豊かな心を持ち、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ～未来を切り拓く力を育む～
現状
<児童生徒> ○明るく素直で、あいさつのできる生徒が多い。 △不登校・不登校傾向の生徒が、減少している。 △互いに切磋琢磨し、伸びていこうとする意識や、自己目標を設定し、本気で挑戦し、達成感や喜びを味わう・共有する等の経験不足⇒自己肯定感、所属・承認意識等に課題 △基本的な生活習慣(就寝時刻)・学習(家庭学習)習慣、社会性(規範・他者意識・貢献等)に課題 △基礎学力の定着や、読解力、「考える・伝える」力、活用(記述)問題への対応力等に課題 <授業> ○教師の一方的な授業から、Aやグループで考えを出し合う・広げあう授業に少しずつ改善している。 △しかし深める授業にまでには至っていない。 △めあてに対応するまとめ・振り返りまでの時間が十分確保されていない。 △机間指導等による個別の学習成果・課題の見取りと手立てが十分でない。

育成する力 21世紀型スキル&倫理観	知識・技能	考える・伝える・聴く力	見通す・振り返る力	社会性	
めざす子ども像	生きて働く知識・技能	ステップⅠ (1年)	比較・関連付けて考える →分かりやすく伝える →最初から最後まで聴く	達成すべき目的・目標や解決すべき課題を見いだす →結果を振り返る	当たり前のことが、少し我慢してでも、当たり前に行える=規範意識
		ステップⅡ (2年)	論理的・科学的に考える →結論・根拠等で伝える →比較・関連付けながら聴く	学習内容・進め方等を理解・把握する →過程を振り返る	感謝・思いやりの心を、ことばや行動にすることが出来る=他者意識
		ステップⅢ (3年)	多面的・多角的に考える →創造的・建設的に伝える →理解・納得・共感して聴く	自分で計画を立てたり、方法を予想したりする →価値を振り返る	集団生活における目的・目標達成、課題解決に向けて自分の役割を果たし、心からの笑顔を増やすことができる=貢献
研究	テーマ	「見通す・振り返る」力の育成			
	内容等	見通しを立てたり、振り返ったりしたことを書く・伝え合う・確かめ合う場の工夫 振り返りの観点 ①なるほど! ②新たな発見 ③見方・考え方が変わった点			
めざす授業の姿	見通す・振り返る ～?(なぜ・どうして)が!(わかった・できた・なるほど)になる授業～				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組・指導・評価	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力を入れている評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れている評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	意欲的に学ぶ生徒を育てる	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「? (なぜ・どうして) が! (わかった・できた・なるほど) になる授業」のサイクルをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・? (なぜ・どうして) ・! (わかった・できた・なるほど) の場を設定した単元構想シートを作成する。 ・学びを深める振り返りシートを工夫し,振り返りを活用した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「? (なぜ・どうして) の場面があった。」 ・「! (わかった・できた・なるほど) の場面があった。」 ・生徒アンケートの肯定率 85%以上 ・「振り返りが,学びや普段の生活につながったり,役に立ったりした。」 ・生徒アンケートの肯定率 85%以上 									
2	社会性を身に付けよう		継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「感謝・感動・思いやりの心」を持った生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の振り返りを,特別活動の授業を通して日常生活とつなげ,行動化に結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における生徒アンケートの肯定率90%以上「あいさつをする」「掃除を頑張る」「ルールを守る」 ・学校行事における生徒アンケートの肯定率90%以上「感謝・感動・思いやりの心」 									
2	体力を向上させる		継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べる・寝る・運動する」ことで,体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を意識した生活を一人一人に身に着けさせる。 ・体育科の授業と体育的行事の連携を図り,運動量を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残菜率を下げる。(2020年度3.9%) ・24時まで寝る生徒を95%以上する。 ・体力テストの県平均以上の種目を増やす。(2019年度38%) 									
5	信頼される学校 保護者・地域から		継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「加茂中学校に通わせて良かった。」という保護者満足度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に寄り添う指導を組織的に行う。 ・その日のことは,その日のうちに学年連携・家庭連携を行う。 ・タイムリーに情報発信する。(各種便り,HP等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「加茂中学校に通わせて良かった。」という保護者アンケート肯定率を90%以上にする。 									
3	小中連携を深む学校における組織マネジメントの向上	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の課題を小中連携し,取組めるシステムをつくる。 ・校内の組織力を高め,業務改善の取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携を密にし,課題を共有し,改善を図る。 ・短時間の職員朝会など情報を共有化する場を設け,組織的な動きを意識することで,一人で悩みを抱え込んだりしない職場の雰囲気をつくり,業務改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区推進協議会で,課題に即した4部会を年4回以上行い,課題に対する改善策を立て,実施する。 ・仕事にやりがいや充実感を得られる教職員を95%以上にする。 ・時間外勤務時間が45時間を超える教職員を0人にする。 									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。